

U.S. Indicators

発表日: 2024年10月25日(金)

10月PMIは米国景気の堅調とインフレ圧力の緩和を示唆

～民間需要はサービス主導で堅調さ維持～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

24年10月のS&Pグローバル米国総合購買担当者指数(PMI)は、54.3(前月54.0)と市場予想中央値(Bloomberg集計)の53.8(筆者予想53.8)への低下に反して前月比0.3%ポイント上昇した。同統計調査対象企業の活動や民間需要の拡大ペースが小幅加速したことが示された。10月総合PMIは、拡大縮小の分岐点である50を21ヵ月連続で上回ったうえ、水準も高く、米景気が堅調さを維持していることを示唆している。

製造業は、47.8(前月47.3)と前月比0.5%ポイント上昇し、縮小ペースの鈍化が示された。また、サービス業は、55.3(前月55.2)と前月比0.1%ポイント上昇し、高い水準を維持、速いペースでの拡大継続を示した。内外での人の移動の活発化による需要の強まりを背景に21ヵ月連続で拡大縮小の分岐点である50を上回ったうえ、米民間サービス業の活動が好調さを維持していることが示された。

総合新規受注は、54.2(前月52.5)と上昇し、需要の拡大ペースが加速したことを示した。製造業が45.3(同44.7)と小幅上昇したほか、サービス業が55.8(前月54.0)と大幅に上昇し、高い水準となった。また、総合雇用は、49.6(同49.5)と小幅上昇し、雇用の縮小ペース鈍化が示された(雇用統計では雇用の増加ペース加速)。サービス業が49.7(同49.8)と小幅低下したものの、製造業が48.6(同48.3)と上昇した。

インフレ関連では、総合投入価格指数が58.1(前月58.8)と小幅低下にとどまったが、総合産出価格指数が51.6(同54.6)と大幅に低下し、消費者段階でのインフレ圧力の弱まりを示した。製造業では、投入価格指数が56.2(同56.7)、産出価格指数が54.0(同54.7)とともに低下しており、財価格の上昇ペース鈍化を示した。また、サービス業では、投入価格指数が58.5(同59.2)と小幅低下にとどまったが、産出価格指数が51.1(同54.6)と大幅に低下し、消費者段階でのサービス価格の上昇幅縮小を示した。

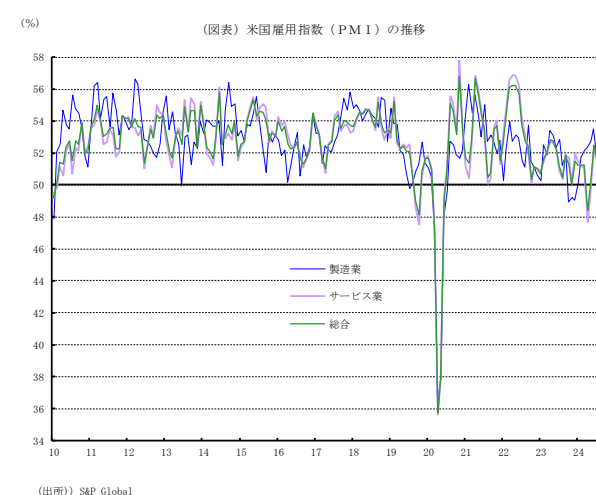
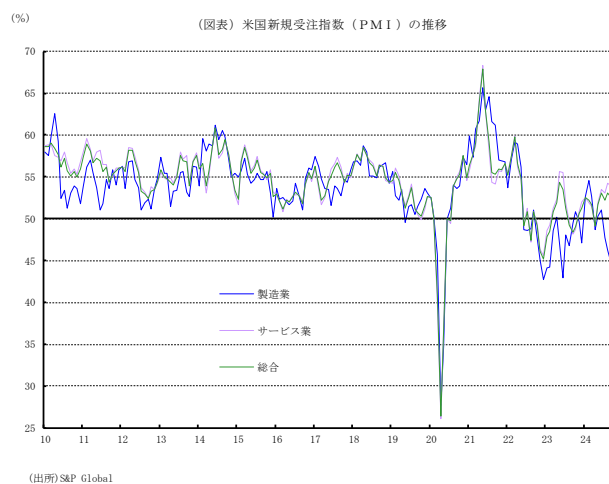
製造業では、在庫が50.7(前月51.6)と低下した一方、生産が48.8(同47.9)、新規受注が45.3(同44.7)、雇用が48.6(同48.3)と上昇した。寄与度では、在庫が前月比▲0.34%ポイントの押し下げ寄与となった一方、入荷遅延が前月比+0.47%ポイント、生産が前月比+0.22%ポイント、新規受注が前月比+0.18%ポイント、雇用が前月比+0.04%ポイントの押し上げ寄与となった。

サービス業では、活動指数が55.3(前月55.2)と上昇し高い水準を維持しており、事業活動が活発であることを示した。また、新規受注が55.8(前月54.0)と高い水準に上昇、需要の速い拡大を示した。さらに、「将来の活動指数」が69.4(前月60.4)と上昇し高い水準で推移しており、サービス関連企業は先行きに対して楽観的な見方を維持し続けている。

10月の総合PMIは、54.3と7-9月期の54.3から横ばいとなっており、10-12月期に米民間需要



の拡大ペースが維持されていることを示している。製造業が 47.8（7-9 月期 48.3）と低下している一方、サービス業が 55.3（7-9 月期 55.3）と高い水準となっている。民間需要は、サービス需要のけん引で、堅調さを維持している。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。